令和6年度 家政学部 前期授業アンケート結果の講評

講評者

管理栄養学科：竹村ひとみ

ライフスタイル学科長：平岩暁子

こどもの生活学科長：宮武里衣

質問1～7 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「授業における教員に対する評価」はおおむね4.0であり、前学期（2023年度前期）と比較してわずかであるが0.1ポイントの上昇がみられた。これまで他2学科の平均値に及ばない状況が続いたが、今年度前期は、管理栄養学科の平均値には及ばないが、こどもの生活学科とほぼ同程度であった。各質問の回答内訳をみると、どの質問に対しても「全くそう思わない」「あまりそう思わない」といったネガティブな回答は非常に少ない。しかし全質問の回答のうち約2～3割を占める「どちらでもない」を少しでもプラスの回答へ持っていけるよう、それぞれの科目において学生の理解を確認しながら丁寧で分かりやすい説明、相談できる雰囲気づくりを学科教員へ求めたい。

〔管理栄養学科〕

「授業における教員に対する評価」について概ね良好な評価を得た。前年度前期と同程度か若干低い評価を得た。中でも、質問1「授業時間分の学修内容の実施」質問6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」が高い評価を得た。一方、質問2「教員の説明は明確で理解しやすかった」が若干低評価であったことから、教員は学生の状況や理解度を確認しながら授業を展開していくことが必要である。

〔こどもの生活学科〕

学生の記述から

自由記述の中で、「好き・嫌い」という感情が表出した評価も一部に見られたが、「よくわかった」「新しいことが知れた」という知識の獲得を評価の素材にしている評価も多くあった。学生たちの学ぶ意欲が見られる記述である。「わかること・知ること」を学びの原点と考えていることは評価できる。ただ一方で「振り返りのシートが大変だった」「書かせる部分が多い」などの知識の定着に関係する部分は、厭う傾向が見られた。「書く」という作業の学びの定着への効率の良さは実証されているが、学生生活実態にすぐわないということも考えられる。定着を確かめる方法が現在多くの教員が実施しているPCRシートで良いのかについては、検討する必要がある。

またグラフによると、質問1～7までが同じような分布になっていることが、設問に対する回答の正当性を示しているかという点で疑問が残る。ただ、どの質問も、5.6の好意的な評価の割合が、管栄養学科と比べると低い。管理栄養学科の指導から学ぶ必要がある。

教員のリフレクションペーパーから

一部の教員は授業に対する学生の不満が多かったにも関わらず、適切な回答、振り返りの内容となっていなかった。授業は密室で行われているために、この授業アンケートは授業改善の貴重な機会である。特に学生の不満の多い教員には、指導の機会を作った方がいいのではないか。アンケート結果を授業に活かす具体的な方法を考えた方がよい。

質問 8～18 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対しての評価」同様、管理栄養学科には及ばないが子どもの生活学科の平均値とほぼ同程度であった。昨年度の値から僅かに評価下がっている項目もあるが、ほぼ同程度であった。しかし、予習・復習時間は前学期の 50.5 分から 65.7 分と多少の改善が見られたが、シラバスで示す時間には大きく不足している。予復習 0 分と回答する学生が 2～3 割、0 分超～30 分と回答する学生が 3 割強おり、他学科と比較して非常に高い割合である。これらの層を無くしていくために、PCR シートの改善、予復習の習慣を付けさせるよう教員側からの指示、指導を徹底していくことと、適切なボリュームの課題を各科目から出すようにすることを学科教員で共有していく必要がある。

〔管理栄養学科〕

「学生自身の学修に対する評価について」では、概ね良好な評価を得たが、前年度前期と比較するとわずかに低評価であった。質問 10「予習による学修内容への理解の深まり」、質問 11「復習による学修内容への理解の深まり」は比較的高い評価を得た。前年度同様、予習に比べ復習により多くの時間を費やしていた。平均予習・復習時間は前年度前期と同程度であった。一方で、質問 14「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」、質問 17「シラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の評価はやや低かった。到達目標を達成していないとの評価に対して、科目の特性を踏まえた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科〕

質問 1～7 の教員への評価と比べると、全体的に 4.5 の割合が少ない。学生の自己評価が教員への評価よりも低いという状態になっている。教職・保育職を目指す学生が主体であるという学科の特性から考えると、自己評価の低さは気になるところである。ただ、質問項目を見る限り、授業に関しての姿勢を問われる質問について高評価が少ないということであるので、授業姿勢の指導について教員の指導が行き届いていない可能性もある。学生の自己肯定感の熟成につながる上に、学習意欲を涵養するような言葉かけが必要である。予復習の時間は家政学部資格関連科目に比べると少ないが、アルバイトなどの必要性を考慮するとこれ以上できないということなのであろうか。

質問 16 教員の学習支援への満足度は重要な質問であるが、平均値の平均が「3.93」であり、学部全体「4.02」を少し下回る結果となったが、大きく下回っていないため、今後の学習支援については大きな変化を求めていると判断した。